

地方創生

第3期浜頓別町まち・ひと・しごと創生総合戦略

浜頓別町地方創生推進室

はじめに

浜頓別町は、日本の北海道北部、宗谷総合振興局管内南部に位置するオホーツク海に面した町です。この町の総面積は401.59km²で、その約70%は山林や原野という豊かな自然に囲まれています。広大な自然環境が特徴の浜頓別町には、訪れる人々を思わずうっとりさせる魅力が詰まっております。

地形としては概ね平坦で、南東・南西には山岳地帯が広がる中、頓別川とクッチャロ川が合流する流域には広大な酪農地帯が存在します。この地帯では町の主要産業となる酪農が営まれており、穏やかな牧場の風景が広がり、一息つきたいときの癒しの場をとまっております。

また、浜頓別町には全国的にも価値の高い自然資源が多く点在しています。その中でも圧巻なのがラムサール条約湿地に登録された「クッチャロ湖」。この湖は、渡り鳥の飛来地として国際的に知られ、美しい自然の中で鳥たちの舞いを観察したり、アウトドア活動を楽しむことができます。さらに、クッチャロ湖畔には源泉かけ流し温泉を楽しめるコテージも整備されており、雄大な自然の中でゆったりとした滞在を満喫することができます。「ベニヤ原生花園」では色鮮やかな花々が咲き誇り、「神威岬（斜内山道）」からは壮大な景色が一望できます。どれも自然愛好家や観光客を虜にするスポットであります。

オホーツク海の恵みと山岳地帯の豊かさが融合した浜頓別町では、ホタテやカニ、サケが特産品として知られており、海産物の新鮮な味わいは一度訪れた人を虜にします。酪農製品も地元ならではの深い味わいで、

毎日の食卓に温かみを添えています。また、浜頓別町は古くから「砂金のまち」としても知られ、砂金採り体験や地域資源を活用した交流事業などを通じて、観光振興や関係人口の創出にも力を入れています。地域ならではの歴史や文化に触れられる取り組みは、多くの人々を惹きつけています。

さらに、浜頓別町では3名の国際交流員（CIR）が活躍しており、町内の外国人住民や地域住民との交流を深めるため、毎月のように国際交流イベントや文化体験活動を開催しています。多文化共生を大切にしながら、地域住民と外国人が自然に交流できる環境づくりを進めており、こうした活動は町の魅力向上や交流人口・関係人口の増加にもつながっています。

季節ごとに開催されるイベントも魅力的です。「自然」をテーマにした催しや地元文化を楽しむ行事は、町の風物詩となっており、住民だけでなく観光客も一緒に盛り上げられる場となっています。伝統的な文化と豊かな自然が融合するこの町は、人々に静けさと豊かさを同時に感じさせてくれます。

浜頓別町は、どこか懐かしく、それでいて新鮮さに満ちた町です。自然の恵みと住民の温かさが織りなすこの町の魅力に触れてほしいです。訪れる誰もが特別な時間を満喫できること間違いなしです。



クッチャロ湖



クツチャロ湖に飛来する白鳥



人口の推移

本町の人口は、戦後の開拓入植などにより一時的な増加を見せ、住民基本台帳登録者数が昭和39年には8,767人とピークを迎えました。しかし、その後は人口流出が始まり、現在に至るまで長期的な減少傾向が続いています。令和8年1月時点の人口は3,162人まで減少し、地域の存続を危惧する状況に陥っています。

本町の出生数は、年次による変動はあるものの、人口減少に伴い着実に減少を続けています。一方、死亡数は年次ごとの変動を見せながらも、高齢化の進行により年々増加傾向が顕著となっています。かつては、出生数が死亡数を上回る「自然増」の状態を維持していましたが、現在では「自然減」が続いており、これが人口減少を加速させる大きな要因となっているのが現状です。

人口減少と高齢化は地域社会の活力を損ない、産業や経済活動を停滞させる懸念を抱えています。これらの課題に対し、町として早急かつ持続可能な対策を講じる必要があり、未来に向けて抜本的な構造転換を目指すことが求められています。浜頓別町の明るい未来を実現するためにも、現在の状況を深刻に受け止め、地域住民と連携しながら、人口減少という重大な課題に立ち向かっていかなければなりません。

浜頓別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

浜頓別町では、国が策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」および北海道が定める「北海道創生総合戦略」を十分に踏まえながら、町の最上位計画である「浜頓別町まちづくり総合計画」を構築しています。この総合計画は、令和元年度から10年間を計画期間とし、浜頓別町が取り組むまちづくり全分野の方向性を定めるものです。さらに、個別の行政計画を総合的に統括する役割も担っています。

その中でも「浜頓別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、人口減少対策や地域活性化を目的とし、計画期間を5年間に設定しています。この戦略では、まちづくりに関わるすべての分野を横断的な視点で捉え、多角的な施策を展開しています。現在実施中の第3期「浜頓別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、第2期戦略の成果や課題を詳細に検証し、国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「デジタル田園都市国家構想総合戦略」、さらに町の第6次「まちづくり総合計画」との整合性を図りつつ見直しを進めてきました。

この戦略では、デジタル技術の進展による首都圏など都市部から地方へ分散する動きを背景に、地方創生を推進していくことを重点に据えています。地域の未来を担う今の子どもたち、そしてこれから生まれてくる子どもたちに、より良い故郷を引き渡すために、浜

浜頓別町では10年、20年先を見据えた施策の展開を目指しています。地域の資源や可能性を丁寧に分析しながら、この町独自の地方創生にしっかりと取り組むことで、浜頓別町の持続的な発展と活性化を実現していきます。

浜頓別町は、未来をしっかりと支える戦略をもとに、地域の魅力をさらに高め、世代を超えて豊かさと活力に満ちた町づくりに取り組んでまいります。



基本目標と具体的な施策

【基本目標1】浜頓別みらいプロジェクト～かなえる～

若い世代が、浜頓別町で安心して結婚・出産・子育てをしやすい地域社会をつくとともに、確かな学力と豊かな郷土愛を育む育成が可能になる環境を目指します。

- (1) 出会いの場のサポート支援
- (2) 保健・医療の充実
- (3) 児童福祉の充実
- (4) 学校教育の充実
- (5) 生涯教育の充実

【基本目標2】浜頓別しごとプロジェクト～かせぐ～

当町の発展を支える基幹産業である農林水産業をはじめ、町内で働くことのできる環境を整備し、地域の活力を支える生産人口を増やすことを目指します。

- (1) 農林水産業の経営強化
- (2) 商工業の活性化
- (3) 各産業の生産性強化
- (4) 地域が誇る浜頓別ブランドの形成
- (5) 後継者対策
- (6) 新規就業者の確保に向けた情報発信・サポート
- (7) 外国人就業者の確保・サポート

【基本目標3】浜頓別くらしプロジェクト～ささえる～

少子高齢化社会において、安心して生き生きとした暮らしを営むことができる環境を目指すとともに、近年関心が高まっている災害への対策など、安心して暮らせる環境を目指します。

- (1) 暮らしのサービスの充実
- (2) 福祉の充実
- (3) 防災・減災の強化
- (4) 住民参画の推進
- (5) コミュニティ活動の充実
- (6) 移住・定住希望者の確保に向けた情報発信・サポート
- (7) 共生社会の実現

【基本目標4】浜頓別魅力発信プロジェクト～にぎわう～

観光資源の活用や満足度の向上、都市・他地域とのつながり構築などにより、観光客満足度向上と、関係人口の創出を目指し、地域が一体となった魅力発信で交流人口を増やし、浜頓別町ファンの拡大を目指します。

- (1) 地域が一体となったイベントの振興
- (2) 浜頓別のファンづくり
- (3) 観光地としての魅力PR
- (4) 観光の拠点の整備

取組事例 1



取組事例 2



おわりに

地域内外の人々に愛され、誇りを持てる町づくりを実現していくためには、何よりも一人ひとりが主体的に関わり、協力し合う姿勢が欠かせないと考えております。浜頓別町では、活力に満ち溢れた町を次世代へと受け継ぐため、その核となる戦略を継続的に深化・進化させていくことが重要であると考えています。

これからも、町の特徴を最大限に活かし、地域資源を磨き上げながら、本町ならではの独自性と魅力を高めていきます。そして住民や訪れる人々が心から安らぎ、未来への可能性を感じられる町として歩み続けることを目指します。

浜頓別町の挑戦はまだ続きます。その軌跡は、次世代への確かな希望と誇りとして刻まれることでしょう。高い志を胸に、共に「未来に繋ぐまち」を創り上げていきます。